

大妻女大短大 高部啓子 下坂智恵 飛鳥千鶴子 新留理江子 ○岡田みゆき

目的：最近の日本では，健康や美の観点から自分自身のからだに対する興味と関心が高まっており，フィットネスクラブやエステティックサロンに通う人も少なくない。また週刊誌や雑誌には毎号必ずと言ってよいほど，痩身法や着痩せ法，身体プロポーションなどに関する記事が掲載され，良くも悪しくもあふれるばかりの情報が提供されている。本研究では，若い女性が，このような機会や情報をどう捉えているのか，また彼女達の体型に対する評価や意識と衣・食生活における着方，食べ方との間に関連があるかどうかなどを明らかにすることを目的とした。

資料及び研究方法：資料は，1993年12月に実施された某女子短大生441名を対象とした117項目のアンケート調査結果及び身体計測結果である。年齢は平均18.8歳，アンケートの調査項目は，着方，食べ方，体調，体型の評価と意識，ダイエットなどに関するものである。これらの結果に単純集計，クロス集計，因子分析などによる解析を行い検討した。

結果：①体型やダイエットに関する主な情報源は週刊誌や雑誌，友人である。得られた情報に対して「どちらとも言えない」を含めると，約80%の者は信じていない。②約50%の者は自分を「太め」と評価しており，約87%の者は「痩せたい」と望んでいる。③自分を「太め」と評価している者は，カロリーを気にしながらも目の前の食べ物に手を出し，やけ食いしたり，食べ過ぎと思うほどに食べる。着衣量は人より1枚少なくウエスト部を上衣で隠し，タイトな衣服は着用せず体型の欠点をカバーするように着装を工夫している。④変えたい身体部位は「太め」と評価している者は全体または下体部であり，「痩せている」と評価している者は胸囲である。